

悪辣な怠惰に勤勉を！！

リーグロード

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ww.  
ふれふれプレアデスのアインズ様と魔女教のペテルギウスのたわいないやりとりw

# 目次

ペテルギウスと話してみよう！ | 1



# ペテルギウスと話してみよう！

此処はナザリックの中のどこかにあるアインズの部屋

「るゝるる、るゝるる」

「アインズの部屋！今日のゲストはペテルギウスさんです」

「この度は魔女教大罪司教怠惰担当ペテルギウス・ロマネコンティを招待してくれて感謝の限りです！」

「今日はペテルギウスさんのいろんな所に踏み込んで行きたいんですが…何でパックがここに居るの？？」

アインズは自分の隣に立っている、いや浮いているパックに話しかける。

「アシスタントだよアインズ様」

「いや、今回はアシスタントに魔女教の覆面さんが！」

「……………」

「けどその人何も喋らないよ！」

「……………」

「我が魔女教を愚弄するのですかなパック殿？」



子」

（えええええ！何こいつまたいきなり叫び出してんの!!?）

「まあ、そんな分かりきった事ですか口で言われると恥ずかしい」

（アルベドお前もか!!?）

「それにしてもアインズ様貴方さつきから見ても気付きましたが！貴方、怠惰ですぬ」

「貴様無礼者アインズ様に対しなんて口の聞き方を！」

「待てアルベド、ペテルギウスさん何故私が怠惰なのでしょうんか？」

「決まっています貴方が勤勉では無いからデス！」

「では貴方の勤勉とはどのような者を指すのでしょうか？」（嫌な予感がするなく！）

此処からはペテルギウスとアインズ交代交代こうたいこうたいで喋っていく。

「決まっているのデス！朝は4時起き！職場までは満員電車で1時間！それから夜まで

休まずお仕事、お仕事」

「おう、勤務時間は20時間、連続31連勤!!?」

「デス！カレンダーの日付は月月火水木金金！」

「残業代はNo thank you。ボーナスはニコニコ現金払い！」

「退職金には死を贈呈。アットホームで誰もが楽しく勤勉に試練が受けられる。それこ

そがまさに愛に報いる福音の〜」

「そこまでだペテルギウスよ! さつきは私もノリで歌ったがさつきから聞いていれば貴様の勤勉とは只のブラック企業いやそれ以下だ!」

「何をおっしゃいますアインズ様我ら魔女教はこれらの行いを正しく守る事で勤勉に生きていくのですよ」

「何!? つまり貴様は部下にそんな事をさせているのか」

「そんな事とは酷いデスね! これこそが全ての人類がしなければいけない勤勉な行いなのでスー!」

(ヘロヘロさんはブラック企業のせいで体を壊しユグドラシルを去って行った、だから俺はこのナザリックではクリーンな職場にしようと思張ってきたそれを踏みにじろうとしているこいつはー)

「ペテルギウス悪いがお喋りの時間は此処までだ!」

「んー、どうしたのですかなアインズ様?」

「さつきまでの貴様の言い分を聞いてな…貴様は私が作りあげようとしているナザリックを踏み潰すかのような言い草…本当に言い度胸をしている」

「おや、やる気ですかアインズ様?」

「……………」

魔女教の信者達がペテルギウスの背後に現れた。

「僕も手伝うよアインズ君」

「いや、それには及ばんよパツクこいつらは私が始末しよう」

「アインズ様一人で戦わす訳にはいきませんこのアルベドもお供します」

「では開戦といきましょうか」

「ああ、だが最初に言ったよなケンカするなら他所でやれと！グレーターテレポーター  
ション」

「ここは？」

「ここはナザリック地下6階層の闘技場だよ」

「これは素晴らしいデスね！」

「さあお喋りは終いにして塵殺といこうではないかペテルギウス!!!」

「ああ、怠惰怠惰怠惰!!愛に愛に報いなければなりません」

「怠惰なる権能見えざる手！」

アインズの周りの地面がえぐられたような跡が出来上がる。

「??何故貴方は生きているのでしょうか？」

「私は上位物理無効化と言うパッシブスキルを持っていてな、低位の攻撃などは完全に無効化するのだよ！お前が何をしたかは知らんがどうやら大したことのない攻撃だった様だな」

「ありえないありえないありえない!!! 我が寵愛が負けるはずが無いのです」

「ならばその幻想を抱いたまま死んでいけ! 心臓掌握グランドハンド」

「どうやら私の方が怠惰だった様…デス…ね」

心臓を潰されペテルギウスは何も出来ずに死んでいった。

「………!!!」

「貴様等もついでに死んでいけ! 負の爆裂ネガティブバースト」

ズンと大気は震えアインズを中心に死の波動が広がり魔女教徒はそれに触れた瞬間糸の切れた人形のように死んでいった。

「さて、全て終わったか」

「お疲れ様でしたアインズ様!」

「アルベドよ私はこのナザリックを愛している、故にこのナザリックを最高の職場にすることを宣言する」

「やっべ、アインズ様超カッケ。くふふふ」

こうしてアインズの部屋での話し合いは静かに終わった。